

令和7年 新年のご挨拶

共に築く循環型社会への道 —— 2025年の新たな挑戦 高品質リユース部品で未来を創る、 NGPの責任と情熱



NGP日本自動車
リサイクル事業協同組合
理事長 小林信夫

新年明けましておめでとうございます。
日頃より、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合をご支援いただき、誠にありがとうございます。新たな一年を迎えるにあたり、皆様と共に歩んでいく決意を新たにしております。

私たちは、地球規模の課題に向き合う中で、大量生産・大量消費・大量廃棄のリニアエコノミーから脱却し、サーキュラーエコノミーへの実現に向けて循環型社会への転換が求められる今、自動車リサイクル業界には大きな責任があると感じています。NGPは、皆様のご協力のもと、自動車の適正なリサイクルを進め、リユース部品を通じてこの転換に貢献してまいります。

リユース部品の利用は、CO₂排出量の大幅な削減と、地球資源の効率的活用を可能にします。そしてその鍵となるのが「品質」です。私たちが提供するリユース部品の高い品質は、お客様に安心してご利用いただけるだけでなく、リユース部品のさらなる普及を促進し、環境負荷の軽減に直接結びつくものだと考えています。

今年度、リユース部品をご利用いただいて生じたクレーム率は、わずか0.7%です。この驚異的な成果は、全国の仲間と共に努力を重ね、品質向上に尽力してきた結果です。

創設以来、“お客様第一”を掲げ続けてきたNGP。

私たちが品質向上に注力するのは、すべてお客様があればこそと考えています。NGPのリユース部品を選んでいただくたびに、「この部品を使ってよかった」と感じていただけるよう、私たちは努力を惜しみません。そして、その品質を信頼していただけることで、リユース部品の利用がさらに広がり、環境問題の解決に繋がっていくものと確信しています。

私たちのリユース部品は単なる部品ではありません。そのひとつひとつに込められているのは、「信頼」と「責任」です。お客様に安心して使っていただける製品をお届けすること——それが、私たちの存在意義であり、情熱の源です。

2025年、NGPはより高品質な部品をお届けすることを追求し、お客様の力をお借りしながら、自動車リサイクルを通

じて自動車業界の発展に貢献していきます。課題には困難も伴いますが、私たちの情熱がそれを乗り越え、共に歩む一歩一歩が確実な変化を生むと信じています。

お客様と共に——。私たちが目指すのは、日々の活動を通じて持続可能な社会を実現することです。今年も、どうぞNGPと共に歩んでいただけたら幸いです。皆様の力が、未来をより良いものに変える原動力となります。

末筆とはなりますが、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



NGPのサーキュラーエコノミーモデル

大型自動車リサイクル部品による 環境負荷低減効果の研究を実施

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合と日本トラックリファインパーツ協会（新井栄代表理事、JTP）は、富山県立大学（富山県射水市）、明治大学（生田キャンパス：神奈川県川崎市）との産学共同で「NGP×JTP大型自動車リサイクル部品産学共同研究会」を発足し、大型自動車リサイクル部品の利活用による環境負荷低減効果を研究しています。

研究の進め方を決める事前調査を実施

2024年9月10・11日にはJTP加盟会社の(株)新井商会（兵庫県姫路市）で、今後の研究の進め方を決めるための事前調査を実施しました。

同社を訪問したNGP本部職員と富山県立大学の教員及び学生は、まず最初にトラックの入庫から解体、リサイクル部品の生産までの一連の工程を見学し、トラックのリサイクルに対する見識を深めました。

その後、リサイクル部品生産時のCO₂排出量を把握するため、リサイクル部品の生産工程に関するデータを取得するとともに、電力・ガス等の使用量についてヒアリングしました。まず、売れ筋かつ大型の部品から優先して環境負荷軽減効果の研究を進めたいとの考えから、キャビン（人が乗る部分）から調査を行いました。

リサイクル部品の重量・素材の調査

11月28・29日には同じく(株)新井商会で、大型自動車リサイクル部品の重量及び素材についての調査を実施しました。今回はNGP本部職員と富山県立大学の教員・学生に加えて、JTPから新井代表理事、竹中専務、新副代表理事2人、そして今期より新設された環境委員会の委員長及び委員6人が参加しました。

前回9月の事前調査から継続して、キャビンの解体工程に関するデータの取得、キャビンを構成する部品（ドア、バンパーなど）の重量・素材調査を進めるとともに、エンジンの重量及び素材についても調査しました。重量と素材の調査は、新品部品生産時のCO₂排出量を算出するために必要となります。重量及び素材に関するデータとLCAソフトを用いることで、新品部品

生産時のCO₂排出量を算出することができます。そして新品部品生産時のCO₂排出量から、リサイクル部品生産時のCO₂排出量を差し引くことで、はじめてリサイクル部品の利用によるCO₂削減効果が算出できます。詳細は、NGPエコプロジェクトのwebサイト（<https://www.nepp.jp/research/>）で紹介しています。

今後もNGP×JTP大型自動車リサイクル部品産学共同研究会では、大型自動車リサイクル部品のCO₂削減効果算出のために活動を続けていくとともに、リサイクル部品の利用拡大を通じてカーボンニュートラルの達成とサーキュラーエコノミーの推進に貢献し、持続可能な社会の実現を目指していきます。

第1回目調査 (2024年9月10・11日)



トラックの解体工程の見学



キャビンの重量及び素材の調査



第2回目調査 (2024年11月28・29日)



キャビンを構成する部品の重量及び素材の調査



エンジンの重量及び素材の調査



幅広い視点から持続可能な社会の実現を目指した 製品・サービスを紹介

環境問題をはじめとした社会課題の解決へ向けた各種情報の発信を目的とする「SDGs Week EXPO2024」が12月4～6日の3日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催されました。

環境に関する総合展示会「エコプロ2024」をはじめ、脱炭素化に貢献するテクノロジーやソリューションを紹介する

「カーボンニュートラルテック（第4回）」、気象災害や地震・津波などの自然災害対策を展示する「自然災害対策展（第6回）」、持続可能な社会資本整備をテーマとする「社会インフラテック（第7回インフラ維持管理・老朽化対策総合展）」、経済成長と環境負荷低減の同時実現を目指すサーキュラーエコノミー（循環経済）の推進を目的

とした「サーキュラーパートナーシップ EXPO」の5つの展示会を通じて、様々な視点から持続可能な社会の実現を目指した製品・サービス、取り組みなどを紹介しました。3日間合計の来場者数は、SDGs Week EXPO2024全体で63,303人に上っています。



自動車リサイクル促進センター

エアバッグから製作したポケットティッシュケースや、フロントガラスの製造過程で出る廃材から作られた絵の具を使用したワークショップを通じて、自動車リサイクル業界における資源再利用の取り組みを紹介



川崎重工

液化水素運搬用の船舶、発電を目的とした水素ガスタービン、CO₂を回収する「直接空気回収設備」などの模型を展示し、水素エネルギーの活用及びカーボンニュートラル社会の実現に向けた各種取り組みを紹介



JFEグループ

自動車の電動化に貢献する技術として、HVやEVのモーターなどに使用される素材を展示。3次元的な磁心構造が必要とされるアキシシャルギャップモーターへの対応として、絶縁被覆純鉄粉を圧加成形した圧粉磁心を提案した



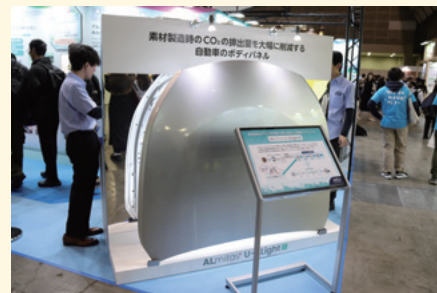
トヨタエルアンドエフ東京

空港内で使用される電動貨物牽引トラクターや燃料電池フォークリフトを展示するとともに、太陽光発電で水素を製造する大規模設備から圧縮機と蓄圧器を搭載しない簡易充填機まで、各種水素供給設備を提案した



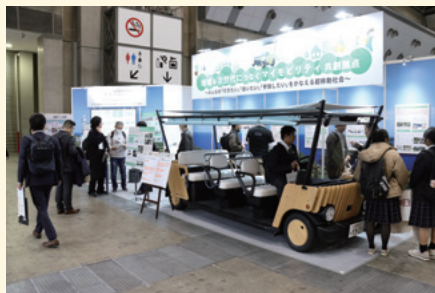
三井物産

資源採掘から素材・部材生産、調達、製造、物流、使用、廃棄・リサイクルまで、製品・サービス単位でCO₂排出量を算定するクラウド上のソフトウェア「LCA Plus」を紹介。ISO14040/44/67などに基づき、簡易かつ正確に算定する



UACJ

自動車生産ラインなどで発生するアルミニウムの端材を再利用することで、純アルミニウム精錬工程におけるCO₂排出量を削減する技術を紹介。同技術の活用事例として、トヨタMIRAIのボンネットフードを展示した



名古屋大学

科学技術振興機構が公募する「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」の採択を受け、同校が設立したマイモビリティ共創拠点の取り組みとして、鹿児島県沖永良部島で実施した自動運転実証実験の内容などを紹介

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量

令和6年11月:

2,048t



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和6年11月:

0.4t

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含む115品目）と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員 かわら版

NGP、SDGs Week EXPO 2024に出展

サーキュラーエコノミーの考え方と 自動車リサイクル業界の取り組みを紹介

NGP協同組合は、東京ビッグサイト（東京都江東区）で12月4～6日の3日間開催された「SDGs Week EXPO 2024」に出展しました。

今回のブースは、来場者に「サーキュラーエコノミー」という概念を広く知ってもらうことを目的として構成しました。ブース内に用意したシアタールームで10分弱の動画を流し、サーキュラーエコノミーの考え方についていねいに説明するとともに、自動車リサイクル業界におけるリサイクル、リユースの取り組みを紹介しました。

また、動画の中でサーキュラーエコノミーやカーボンニュートラル、NGPの取り組みに関するクイズを出題することで、来場者のさらなる理解を促しました。一方ブースのデザインでは、使用済み自動車買い取りサービス“廃車王”を前面に出すことで、同ブランドの認知度向上につなげています。

総務広報委員会の渡辺辰美委員長は「今年はサーキュラーエコノミーをテーマとして、自動車リサイクル業界の取り組みを“来場者一人ひとりに深く伝える”ことをコンセプトとして、ブースを作成しました。動画中で出題されるクイズの司会もNGPメンバーが務めました、



ブースの全体像。車両を展示し、サーキュラーエコノミーの重要性を伝えるブース作りをした

真剣な表情で動画を見て、クイズに答える子どもたちの姿が印象的でした」と、今回の出展コンセプトとその手応えについてコメントしています。

サステナブル委員会の岸本恭秀委員長は「社会全体で環境への意識が高まる中、自動車リサイクル業界の取り組みを広く知ってもらうことで、業界の地位向上につなげていきたいと考えています。今後も香川県豊島の環境保全・再生活動をは

じめとした様々な取り組みを通じて持続可能な社会の実現に貢献するとともに、自動車リサイクル事業そのものが環境負荷軽減につながる重要な役割を担っていることを広く社会に伝えていきます」と、今後の活動方針を示しました。

NGPは今後も各種活動を通じて、サーキュラーエコノミーの実現と業界の認知度向上を目指してまいります。



総務広報委員会・渡辺辰美委員長（右）とサステナブル委員会・岸本恭秀委員長



シアタールームは席が足りず、立ち見が出るほど大盛況。来場者は真剣な表情でサーキュラーエコノミーについて学んでいた



動画を見終わった来場者には、使用済み自動車から取り外したエンブレムをプレゼント



エアバッグからアップサイクルした薪バッグの展示、取扱説明書からアップサイクルしたリサイクルノートの配布で、NGPの幅広い活動内容を紹介



NGPブースの運営スタッフ。NGPは今後も各種取り組みを通じて、サーキュラーエコノミーの実現に貢献してまいります

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>